

こまざわ経済通信

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1-23-1

ピンチはチャンス

小栗 崇 資 (教授、財務会計論担当、2000年就任)



今年の4月から百田義治先生から学部長職を引き継ぎました小栗と申します。ご挨拶を兼ねて経済学部の現状と今後について述べさせていただきます。

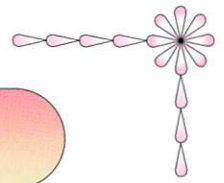
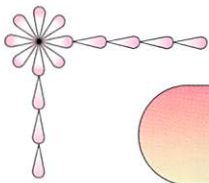
何よりも、大きな点は、デリバティブ損失による財政的なダメージからの回復が順調にすすみ、平成27年度からは大学全体で財政再建期から財政健全化期に移行する見込みであるということです。これまでは退職の先生の補充も十分ではありませんでしたが、再来年度からは教員採用も積極的に行うこととなります(教員募集は来年度からスタートします)。さらに理事会は全学の教員補充計画の中で、経済学部などの社会科学系学部の教員数をより多くすることを

決定しました。このことにより現在の経済学部の教員数は44名ですが、平成32年度までに53名にまで増大させることができます。

実は平成31年度までの間に経済学部では、17名の先生が定年退職を迎えます。同窓の皆さんもよくご存じの先生方の多くがご退職となるわけです。その結果、平成32年度までに新しく採用しなければならない教員数は23名に上ることになります。経済学部の半数近くの先生が入れ替わり一挙に若返りが進むといっても過言ではありません。しかしそれはこれまで培ってきた経済学部の伝統が失われるピンチでもあります。

私たちはピンチをチャンスに変えなければなりません。伝統を引き継ぎ21世紀の時代をにう新しい経済学部を作り上げなければならないと考えています。現在、将来構想委員会を立ち上げ検討を開始しているところです。機会があれば、同窓の皆さんからも、どのような経済学部になっていったらよいかお聞きしたいと思っています。私たちの議論は目先のこまごましたことに集中しがちですが、飛躍を求めて大きな夢を描くことが必要となっているのです。最近の言葉を使うなら、それをやるならまさに「今でしょ」ということになります。皆さんからのますますのお力添えをいただければ幸いです。





研究室訪問シリーズ

浅田進史 (准教授、経済史担当、2012年就任)



「われわれの近代交通環境によって、あたかも地球がゴムボールのように圧縮されているというイメージを一度もつことが必要でしょう。」

1901年12月のドイツ帝国議会で関税引き上げをめぐる激しい議論が交わされたとき、当時のドイツ内務省長官はこのように発言しました。近代における交通環境の急激な変化と世界経済の一体化は、今から110年以上も前の政策担当者にも、地球を「ゴムボール」に例えるほどの強い印象を与えるものであったことが読み取れるでしょう。

1990年代に入って、グローバル化というキーワードが人文社会科学のなかで頻繁に使われるようになりました。経済史でも、このグローバル化という現象をどのようにとらえればよいのか、研究者の間で議論になってきました。近年では、およそ100年前の世界経済の一体化を「初期グローバル化」ある

いは「第一次グローバル化」と呼び、それと現代のグローバル化を比較する経済史研究者も現れています。

私自身も、19世紀・20世紀のヨーロッパ、とくにドイツと東アジアの経済関係を対象に、世界経済の一体化が地域社会の経済活動や国家の経済政策にどのような影響を与えたのかについて研究しています。最近、取り組んでいるテーマは、1900年頃から世界恐慌前後にかけての、中国・山東産落花生をめぐる欧・日・中の商社間の競争についてです。20世紀初頭に山東産落花生は、当時、急速に世界商品として台頭し、欧米市場に向けて大量に輸出されるようになりました。こうした動きがヨーロッパと東アジアの経済・社会にとってどのような意味を持っていたのかについて考察しています。

本学経済学部には2012年4月に着任し、経済史を担当しています。講義では、大西洋奴隷貿易が本格化した16世紀以降の近現代世界経済の推移を、近年の研究動向を交えながら解説しています。ゼミはまだ2年目に入ったばかりで、現在、3年次7名、2年次16名で活動しています。基本的に、ゼミでは、経済史の古典や新刊書を読んだり、経済史的なアプローチを前提に自分の関心あるテーマについて発表してもらい、討論を重ねています。それぞれの研究成果は、ゼミ生には、学年合同でのゼミ発表会やゼミ論集で共有してもらおう予定です。



矢野浩一 (准教授、統計原論、応用マクロ経済学担当、2011年就任)

最近、ほとんどの方は「アベノミクス」や「異次元緩和」という言葉を新聞・ニュース等で聞いたことがあると思います。私の研究を平たく述べれば、このアベノミクスの経済効果や「なぜ効果があるのか」といった仕組みを研究することです。

多くの方がご存知のように、日本経済は1990年代以降、不況とデフレという二つの弊害に苦しんでいます。これらが発生した理由とそこからの脱出法を研究することは大変に重要なテーマです。その際に非常に参考になるのはアメリカの大恐慌と日本の昭和恐慌とそこからの脱出方法です。

大恐慌・昭和恐慌からの脱却のため、アメリカではニューディール政策、日本では高橋財政が実行されました。ニューディール政策も高橋財政も「財政政策(公共事業等)の効果で恐慌から脱出した」と世界史の授業等で学んだ記憶をお持ちの方も少なくないと思います。しかし、現在では少しその常識は修正され、現在では「金融政策も大きな役割を果たした」と考えられています。

近年の研究ではカルフォルニア大学バークレイ校のアイケングリーン教授らの研究により「金本位制を停止した国ほど早く景気回復を実現した」ことが分かっており、その発見は「金融要因が景気回復に重要であった」ことを示しています。

しかし、これらの近年の研究は財政政策の有効性を否定しているわけではありません。ニューディール政策の後期に当たる1937年に増税を行い、その結果として不況に逆戻りしてしまったことが知られており、これを「1937年の失敗」といいます。

今年(2013年)10月1日に、来年4月の消費税率引き上げを安倍政権は決めたわけですが、どうやらここまで順調に進んできたアベノミクスも危機に瀕していると言えそうです。

私の研究室ではこのような問題意識でニューディールや高橋財政、最近のアベノミクスについて最新のマクロ経済学である「動学的確率的一般均衡理論」を用いて研究しています。しかし、それをそのままゼミで勉強するのは少し難しすぎる側面があります。そのため、近年発展が目覚ましい「行動経済学」や「実験経済学」をゼミで実際にやってみることでゼミ生には、経済学的発想の有効性や限界について実感してもらおうように心がけています。

また、授業ではできる限り最近の話題(アベノミクスや2020年の東京オリンピック開催の経済効果)を取り上げて、経済学・統計学について基礎知識を身につけてもらえるように心がけています。

名誉教授シリーズ

高齢化社会に思う

森岡 仁 (名誉教授、人口担当、2012年定年退職)



人生の3分2を過ごした駒澤大学での教員生活を終え、年金受給者の仲間入りをして早1年半が過ぎました。長年人口研究をしてきて、いまは身をもって高齢化社会での生活を味わっております。駒澤大学の講義では、他人事のように論じていた高齢化問題への関心が、一層深まったようであります。毎年、夏期休暇明けの最初の授業で、9月半ばの敬老の日に合わせて発表される老年人口推計(総務省、9月15日現在)を受講生に紹介し、着実に進行する日本の人口高齢化の経済的意味について語ったことが、懐かしく思い出されます。

古い話して恐縮ですが、最近、わが国の高齢化問題に注目する契機の一つとなったP. F. ドラッカーの『見えざる革命—来るべき高齢化社会の衝撃—』(1976年)を再読する機会がありました。本書は、誰にも気づかれずに進行する人口の年齢構造の変化を「見えざる革命」と呼び、それがアメリカの社会経済に与える革命的衝撃について、私的年金基金を中心に論じたものです。その中でドラッカーは、人口構造の変化が、従来の経済学や経済政策を陳腐化させ、これまでの福祉国家の概念とは全く違う社会を生み出すと主張して、人口構造の変化に対応した政策変更に必要な示唆を与えておりました。そして、このアメリカの例が最も良く当てはまる国は、他ならぬ日本だと明言していたのであります。

ドラッカーの示唆から40年近くが経過して、遅蒔きながらわが国でもようやく人口構造の見えざる革命の重大さに気づき、国民生活に関連するあらゆる制度、政策の改革に取り組み始めました。例えば、前政権が税と社会保障の一体改革の一環として打ち出し、いま最も国民的関心を集めている消費税増税問題も、結局は、少子高齢化に伴う年齢構造の変化によって、社会保障の世代間扶養負担を支え切れなくなった所に原因があります。現政権下に設置された社会保障制度改革国民会議が、9月に提出した最終報告書では、社会保障の負担を年齢別から能力別に改め、たとえ高齢であっても応分の負担を求める、全世代型の社会保障を目指しております。一方、これまで高齢世代中心であった社会保障給付においては、若年世代に配慮した少子化対策が重視されており、この面でも全世代型に変わろうとしております。

今年もまた敬老の日に合わせた老年人口推計が発表され、総人口に占める65歳以上人口の割合(高齢化率)が25%に達したと報じております。実に、人口の4人に1人が高齢者であり、100歳以上老人は5万4,000人を超えたとのこと。しかし長期将来推計では、半世紀後の高齢化率が40%に達すると予測されておりますから、日本の高齢化はまだ序の口であります。総人口が今後益々減少幅を広げて行く未知の人口減少時代の中で、高齢化問題にどう対応して行くのか、全世代で取り組むべき課題には、極めて多くのものがあると考えております。



ゼ

ミ

紹

介

石川 祐二 ゼミ

石川祐二ゼミ（管理会計論）は、現在、2～4年生で合計54名が在籍しております。初めは会計の基本的な理論や考え方を学び、その後、企業の管理と会計との関係についてゼミ生各自が研究・発表を行っています。

最近簿記の勉強をしたことがないゼミ生も増え始めているため、日商簿記の3級程度をマスターするためのサブゼミも週に一度開かれ、自主的な学習に励んでいます。

また、2013年の夏合宿では、ビジネス・シミュレーションに取り組みました。会計の学習は「紙の上」の現象に取り組むものであるために、具体的なイメージをつかむことが難しいと思われます。例えば、「減価償却費」という項目についての計算ができ、また、それについての仕訳や帳簿記入ができたとしても、その「減価償却費」が企業の活動にどのように関わってくるのかをすぐに思い浮かべることができません。その点、ビジネス・シミュレーションでは、いくつかのグループを作り（これが“会社”）、そこに属するゼミ生が“取締役”となって意思決定をする際に、価格や設備投資額の決定に関わって「減価償却費」を考慮しなければなりません。あくまでも架空の意思決定とはいえ、会計上の計算項目が「使われる」場面を体験できるのです。さらに、こうしたシミュレーションでは、意思決定に関わる話し合いを必要とするため、コミュニケーションをとることに役立ちます。

こうした経験が実社会で活躍するための基盤になり、また、将来に亘ってつきあえる仲間を作ることに繋がると期待しています。

石川祐二（教授、管理会計論、2002年就任）



代田ゼミ

経済学部 代田ゼミでは、金融に関し学習および研究をしています。2年生時は入門書を前期に読み、夏休みに希望者は証券会社の実施するインターンシップへ参加することが可能です。後期には、日経ストックリーグという、日本経済新聞社が主催する株式投資コンテストへ参加しています。3年生時は研究書を前期に読み、単位化されたインターン（岡三証券）に参加しています。後期には就活に向けて、新聞を読み、パワーポイントで発表しています。

代田が最近出版した本としては、『ユーロと国債デフォルト危機』（税務経理協会、2012年）や、『証券市場論』（有斐閣、2010年、共編）があり、ゼミでもテキストとして使用しています。『ユーロと国債デフォルト危機』については、2012年度の駒澤大学学術文化賞を受賞いたしました。

ゼミの卒業生就職先は、やはり金融証券関係が中心で、今まで野村証券、日興証券（当時）、みずほ銀行、三井住友銀行をはじめ、多くの銀行、証券会社に就職しています。このほか、公務員関係では警視庁をはじめ各県警、消防が多く、また各地のJAにも進んでいます。

来る2013年12月13日（金）に18時より、代田ゼミ忘年会が深沢校舎ホールで予定されており、都合がつく限り、OBやOGの皆様にも参加を呼びかけます。現役学生だけでも1～4年全体で80名を超えるため、深沢校舎でしか開催できません。

現在の学生を見ていて、就活が年々厳しくなっていて、大変だな、と感じることもあります。しかし、インターンシップなどで、生の証券市場に触れて、触発されて、学習することも可能になっています。こういう面では、羨ましく感じる面もあります。

OBならびにOGの皆様におかれては、後輩の御指導にぜひ御力（おちから）をお貸しいただきたく、願います。忘年会の出欠に関しては、shirota@komazawa-u.ac.jpまでお願いします。

代田純（教授、金融論、2002年就任）



経済学部同窓会長賞を9名が受賞

平成25年3月25日に行われた平成24年度卒業式において、在学中勉学に励み、人物にも優れた下記の経済学部の学生9名に経済学部同窓会長賞として賞状と記念品（万年筆）が授与されました。

経済学科：須藤晴香、大石千尋、菊池宏和

商学科：横田雅美、海老原靖之、渡邊大希

現代応用経済学科：井上彩、藤井恵、楊承ハン



経済学科・須藤晴香さん



経済学科・大石千尋さん



経済学科・菊原宏和さん



商学科・横田雅美さん



商学科・海老原靖之さん



商学科・渡邊大希さん



現代応用経済学科・井上彩さん



現代応用経済学科・藤井恵さん



現代応用経済学科・楊承ハンさん

学食がリニューアルして1年が経ちました！

2012年4月、駒沢キャンパスの学生食堂がリニューアルオープンしました。銀座スエヒロカフェテリアサービスが手掛ける食堂で、「スエヒロハンバーグ」をはじめお肉のメニューが充実しています。カレーも人気があります。1階は8時～19時まで（土曜日は17時まで、日曜・祝日・長期休暇中は休業）営業していますしどなたでも利用可ですので、禅文化歴史博物館見学や駒沢公園散策のお昼時に利用されてみてはいかがでしょうか。学生の昼休みの時間帯（12時～13時頃）は大変混雑しますので、その前後の時間がおおすすめです。

① 学食入り口

（現在学食の横にはセブンイレブンがあります）



② 入り口をいった右側に、その日のメニューが

展示されていますので、好きなものをどうぞ



③ 券売機でチケットを購入



⑤ 定食とカレーがやってきました

④ チケットをだして待ちます



お昼時の学食の様子です！
経済学部同窓生のみなさまも
ぜひお気軽にご利用ください！

寄付金の御礼を申し上げます

経済学部同窓会の財政状況をご説明し財政再建へのご協力をお願いしましたところ、多数の会員が年会費の他に寄付金をお寄せくださいました。皆さまの温かいお気持ちと母校愛に触れ、感激の気持ちで一杯でございます。今後とも経済学部同窓会にご支援を賜りますこと、心よりお願い申し上げます。以下、寄付者の御芳名を掲載させていただきます。

経済学部同窓会長 大場やすのぶ

(平成25年3月1日より平成25年9月18日の期間の寄付者を掲載しています)

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------------|
| 【昭和28年卒】 豊田利雄 | 【昭和48年卒】 石井亮一、御園井克旨、宮内徹、後藤修、池端良一、関根博之 |
| 【昭和30年卒】 愛甲道雄、石川京英 | 【昭和49年卒】 幸野保典、西田達、藤岡浩、石川勉、 |
| 【昭和31年卒】 棟居正夫、福士英彦 | 【昭和50年卒】 加藤英昭、黒川輝雄 |
| 【昭和32年卒】 松沢善博、倉田豁、関光禪 | 【昭和51年卒】 鈴木正一、山科尚巳、大川戸靖、塚越幹夫、 |
| 【昭和33年卒】 安次富長健、鈴木幸雄、横山美光 | 瀬戸孝尚、下崎正人、柘植義明 |
| 【昭和35年卒】 曾根利夫、樋口太、平田憲治、原健次 | 【昭和52年卒】 渡辺新一、生方高一、宮坂治彦、山田久男、 |
| 【昭和36年卒】 清水左京、高山一栄、伊藤吉次 | 井口敬治、村上幸永、桃園豊弘、杉山寿一、 |
| 【昭和37年卒】 吉田憲治郎、松井章容 | 南茂臣、照井昇、若月清 |
| 【昭和39年卒】 松下誠之、渡辺征治、永井良英、竹内正允、 | 【昭和53年卒】 木村章、岡田嘉治、茅根修善 |
| 荒井仁、吉田泰治、越水正明、 | 【昭和54年卒】 富岡正明、武田哲夫、井村譲 |
| 【昭和40年卒】 松崎博明、鈴木武二、武波修二、平田次弘、 | 【昭和55年卒】 三井長子、新井毅、大森裕之、仁木富夫、 |
| 萩島林七 | 眞田浩幸、上野和彦、岸川栄作、飯田直則、 |
| 【昭和41年卒】 柳原義光、黄瀬健一郎、高木敏一、鈴木康夫、 | 谷内国昭 |
| 朝比奈紀男、辻中義一、菅澤哲 | 【昭和56年卒】 岡田正勝、 |
| 【昭和42年卒】 河内公一、野山憲吾、橘捷良、平野三千雄 | 【昭和57年卒】 武川久美子 |
| 【昭和43年卒】 佐藤政夫、谷敷正光、浅野善道、松村博、 | 【昭和58年卒】 藤田博志 |
| 渋谷雄二、岡正明、光永吉輝、室伏重俊、 | 【昭和59年卒】 遠藤裕久、松倉勇記 |
| 尾関政彦、菅原賢司 | 【昭和60年卒】 小関正彰、高橋知広 |
| 【昭和44年卒】 中村芳信、森田五朗、田尻暢昭、大江寿利、 | 【昭和63年卒】 大岡伸介 |
| 村上清、矢作正博、名古屋勉、奈良田忠 | 【平成1年卒】 波岡秀忠 |
| 【昭和45年卒】 伊藤幸治、相原栄治、斎藤但、石井光彦、 | 【平成2年卒】 内藤賢二、志村公康 |
| 寺前洋巳、大場康宣、扇野満明、斉藤忠次、 | 【平成3年卒】 奥島信明 |
| 磯部容、船越眞一、梶川勇、馬場敏雄、 | 【平成8年卒】 千葉知仁 |
| 山名一雄、山下一夫、遠藤弘隆、仁田安敬 | 【平成12年卒】 金敷直幸 |
| 【昭和46年卒】 森元義和、竹本隆、澤田悟、長嶋孝裕、 | 【その他】 森岡仁(名誉教授) |
| 田中孝教、阿津沢清、友松憲彦、小長谷久道、 | 大村世音様(昭和46年卒)の御遺族 |
| 新倉国生 | |
| 【昭和47年卒】 石戸谷公造、新保克之、小川英子、関野萬昌、 | |
| 米村健治、赤羽哲夫、赤松紀幸、伊藤俊介、 | |
| 原田晶功、町田秀利、尾亦清、山形幸司 | |

経済学部同窓会事務局からのお知らせ

1. 同窓会組織の強化にご協力ください。

同級生、ゼミやサークルの仲間、地域のお知り合いで「経済学部同窓会」に加入していない方がおられましたらご紹介ください。事務局から未加入の方に入会案内をお送りします。

なお、入会手続きは郵便振替用紙に氏名、卒業年度、卒業学科、住所、電話番号を記入し同窓年会費2,000円を納入すれば完了します。(通信欄に「新会員」とご記入ください)

◎郵便振替口座

加入者名： 駒澤大学経済学部同窓会

口座番号： 00190-1-614809

2. 「こまざわ経済通信」の原稿募集

同窓会報の充実のため卒業生の原稿を募集しております。積極的なご投稿をお願い致します。

・論題：自由

・字数：800字以内

・送付先：駒澤大学経済学部同窓会事務局

*なお、原稿の採否は編集委員会にご一任ください。